

「SDGs の視点を踏まえた地域課題解決事業 2020」

成果報告書【抜粋版】

事業名称「スタディプレイス事業のオンライン化プロジェクト」

2021年2月23日

NPO 法人エデュケーションエキューブ

2021年2月23日(火)

「SDGsの視点を踏まえた地域課題解決事業2020」事業報告書

1. 申請者の属性

申請者（法人）の名称	(認定) NPO 法人エデュケーションエークューブ
住所	〒819-0367 福岡県福岡市西区西都 2-1-31-1303
設立	2013年8月2日
代表者	代表理事 草場勇一 (准認定ファンドレイザー)
役員	副代表理事 佐村礼二郎 (エーアイキャピタル (株) 代表取締役) 理事 竹井雅文 (元修学館 館長) 伊藤尚毅 (アントキャピタルパートナーズ (株) マネジ ングパートナー) 原口唯 (株式会社 YOUI 代表取締役) 監事 伊藤雅浩 (シティライツ法律事務所弁護士) 山本教貴 (山本公認会計士事務所)
ミッション (社会的使命)	ミッションは「Anyone can be anything!」、子ども達が生まれ育った環境に関係なく誰もが努力すれば何にでもなれると信じていることができる社会を創ることです。学校外教育の場で ICT を活用し、誰もが良質で多様な学びを受けられる環境を提供することで、経済的格差がもたらす教育格差を是正し、貧困の連鎖の解決に貢献します。
法人概要	貧困による教育格差を是正するため、小学生～高校生までを対象に、ICT を活用したアフタースクール・学習塾・フリースクール・通信制高校を兼ねる多機能型学習拠点「スタディプレイス」を福岡県内3箇所で開催しています。相対的貧困状態の子ども達をサポートするため、寄付を原資に授業料の 50～70%を減免する独自の奨学制度を提供しています。
従業員数	18名 (アルバイト・インターン含む)
事業収入	19,476,685円(2020年6月度)

2. 事業の実施による地域が抱える課題の変化

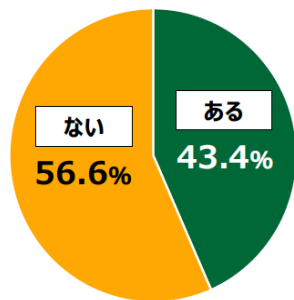
日本財団が17歳から19歳の男女に実施した教育格差に関する意識調査では、43.4%の人が他の人に比べて学習環境に差があると感じていることが明らかになっています（グラフ1）。

そして、グラフ2からも見えるように、この課題に影響しているものとして、大きく3つの原因が考えられます。1つ目は経済的理由などの家庭環境、2つ目はデジタル格差、3つ目は地域格差です。1つ目については、具体的に、経済的な理由で塾に通えないこと、落ち着いて勉強できる環境がないこと、そしてより低年齢うちに家庭で培われる生活習慣や基礎的な学習力の不足などが挙げられると考えられます。2つ目については、家庭や地域によって、あるいは公立学校と私立学校との間で、デジタル環境の整備に差があること、オンライン授業が導入されていない学校が多いことなどが挙げられるでしょう。そして、3つ目については、通える範囲に制限があるため、住んでいる地域によって選択肢の数に差が生じてしまうということが考えられます。

本事業は、子ども達に1人1台iPadを配布し、オンラインを活用することにより、全員自宅から参加できる環境を整えることで、デジタル格差や地域格差を是正できると考えています。また、寄付を原資に経済的に困難を抱える世帯には授業料の50~70%を免除する奨学制度も設けているため、経済格差がもたらす教育格差の解消にもつながると考えています。

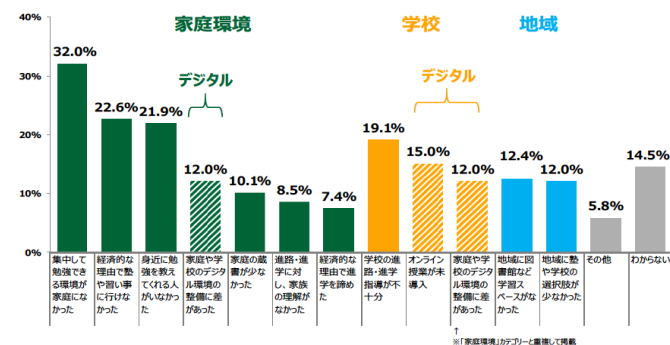
本事業を本格的に事業化することで、これらの3つの格差を解消し、九州地域における教育格差の是正に貢献することができると考えます。

Q 他の人に比べて学習環境に差があると感じたことがありますか。(n=1000)



グラフ 1

■学習環境に差があると感じたことがある人
Q 学習環境に「差がある」とした理由を選択してください。(複数回答) (n=434)



グラフ 2

【出典】

日本財団「日本財団『18歳意識調査』第33回テーマ：教育格差について」(2021年1月7日)

<https://www.nippon-foundation.or.jp/who/news/pr/2021/20210107-52334.html>

3. 社会実装事業の内容

プロジェクト名	スタディプレイス事業のオンライン化プロジェクト
実施時期	2020年10月～3月
対象地域	福岡県全域
実施内容	オンラインでのフリースクール事業
実施生徒	5名（高校生1、中学生1、小学生3）
活動詳細	<p>【ツール】</p> <p>1人1台のiPadを配布し、ビデオ会議システム zoom、LMS（学習管理システム）Google classroom/See-saw、電子ホワイトボード Jamboard 等の最先端のICT環境を整備しました。</p> <p>【一日の活動内容】</p> <p>午前は基礎学力の醸成を目的とした学習を行い、午後は21世紀型スキルの獲得を目指したインタラクティブな学びや体験を行いました。</p> <p>〈午前〉</p> <p>e-board（動画教材）を活用しながら、学習の個別最適化を図りました。zoom のブレイクアウトセッション機能や Jamboard を使用し、質問への個別対応も行いました。</p> <p>〈午後〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探求学習では、生徒自らが答えのない問いに対して、情報を収集・整理・分析しながら課題解決に向けて学んでいく活動を行いました。その際、自ら学び自ら考える力が育つことを目指して、生徒の興味や関心にもとづいた問いを引き出す工夫をしたり、アウトプットとして発表会を行ったりしました。 ・グローバル学習では、海外への興味・関心を持ち、視野を広げることを目指し、海外の人とオンラインでつながる機会を設けたり、Google Earth で世界の様々な場所を調べたり、英語のゲームを行ったりしました。 ・クリエイティブ活動では、0から1を生み出す創造力を育てることを目指し、プログラミングや ICT を用いたアート活動などを行いました

4. 得られた成果

最大の成果は2021年4月から事業化を開始するための準備ができたことです。実証期間の成果としては、①運営体制整備、②カリキュラム作成、③事業化準備、④子どもたちの変化という4つの成果があります。以下、4つについて詳しく説明します。

① 運営体制整備

オンラインコースのスタートに当たって、ミッション・ビジョンの作成をし、メンバー全員で共有しました。ミッションは、「変化の激しい時代で子ども達が社会的自立を果たすこと」、「誰ひとり取り残さないこと」としました。教育方針としては、子ども達が変化の激しい時代を生きぬく力として、①思考力（クリティカルシンキング・課題解決力）、②創造力（STEAM教育・ITリテラシー）、③社会性（コミュニケーション・社会とのつながり）と明文化しています。実務面では、オンラインコースを運営するにあたっての運営マニュアルを作成し、一日の流れやICTの活用方法についてまとめ、スタッフ間で共有できるようにしました。

② カリキュラム作成

探求学習は、変化が激しく答えが誰にもわからない時代の中で、子ども達が自立すること、自ら学び自ら考える力を獲得することを目的としており、重点的に行っている活動です。このような目的を踏まえて、探求の再定義、プロセスの確認、生徒の興味関心を引き出す偏愛マップの作成、生徒がまとめを作成するためのフォーマット準備などを行いました。また、多様な生徒がいる中で、それぞれに合ったサポートができるようにするため、探求のステップを3つに分けて捉えました。

英語学習は、英語を楽しんでもらうことを目的として、「Raz-Kids」というアプリを用いたリスニングとスピーキングを取り入れました。また、このアプリは多読・多聴のためのツールとして活用することもでき、子どもがたくさんの単語や表現を楽しみながら吸収することも可能にしました。

また、発達に課題を抱える子どもたちのアセスメントにも取り組みました。作業療法士の資格を持つ専門家に、オンラインで子どものアセスメントを行ってもらい、発達に課題を抱える子どもに適した学習方法やコミュニケーションの仕方を知ることができました。通常のスタッフがオンラインの関わりの中で把握することは難しいと思われるような子どもたちの特性を把握することができ、それぞれに適したサポートをすることにつながっています。

③ 事業化準備

オンラインで広域の子どもたちを支援するため、福岡県内のフリースクール2校とオンライン事業における協力関係を結ぶことができました。上記の2校に加え、大分の発達障害の子ども達向けの学習塾や佐賀の放課後デイサービス事業者とも提携交渉を進めたいと考えています。オンラインのかかわりを必要としている子どもにはEA3のオンラインコースを利用してもらい、

その子ども達が教室に通いたいと思ったときには提携先の教室に通うことができるようにし、県外からも生徒を受け入れる体制が整いました。また、実施体制としては、当面は現在のプロジェクトメンバーを中心に事業化を進める体制が整いました。2021年4月より事業化をスタートし、7月を目途に、オンラインの専任スタッフを採用し、事業化を加速させて行くことを検討しています。

④ 子どもたちの変化

子どもたちの事例を紹介します。すべての生徒が母子世帯の子どもであり、奨学制度が適用されています。経済的困難を抱え、孤立しがちな子どもたちに対して、他者との接点や学習の機会を提供することができました。

【事例1 (Aちゃん、小学5年生)】

発達の課題もありお母さんと離れることに強い不安を抱えていたAちゃんですが、オンラインであれば自宅で過ごすことができるため、安心して参加することができました。今では毎日オンラインの学習や遊びに積極的に参加し、探求学習でも自らアンケートを作成するなど大きく成長しています。

【事例2 (Cちゃん・Dちゃん姉妹、小学4年生、中学1年生)】

外出するのが難しく、いつも一緒に過ごしているCちゃん・Dちゃん姉妹も、週に1回、オンラインで学習や探求学習に取り組むことができます。探求学習では2人の大好きなアイドルを取り上げ、自分たちで様々な工夫を考えながら積極的に活動しています。約半年間のかかわりを通して、「もっと自分の意見を言えるようになりたい」といった向上心も見えるようになりました。また、これまでは1科目のみを集中的に行っていた学習についても、「他の科目にも挑戦したい」という気持ちが本人から出てくるようになりました。

【事例3 (Eちゃん、高校1年生)】

教室からは遠い宗像市在住のEちゃんは、一時期は体調を崩したりすることもありましたが、週2回のオンラインと週1回の登校で無理なく参加することができています。Eちゃんは探求学習において、主体的に問いや方法を考え、学ぶことに楽しみを見つけています。1年目の探究のテーマは「感情が豊かな人が幸せなのか？」という深い問いを立て、思考を深めることができています。Eちゃんのチャレンジする姿は他の生徒の探究学習にもよい刺激を与え相乗効果が生まれています。